

5～6年生 質問会のご報告

国語の寺子屋

<http://home.p07.itscom.net/gakusyu/>

早川尚子

kokugo_terakoya@n05.itscom.net

「お母さんが教える国語 親子教室」にいらしている何人かのお母様方から、「受験についてよく知らないまま塾に行かせ、子どもたちの点数や偏差値を見ては一喜一憂している」というお悩みを伺い、同じような不安を抱えていらっしゃる方々も多いのではないかと案じておりました。その折、森上教育研究所にて、5～6年生のお母様方と、少人数の茶話会形式での「受験についての本音が気楽に話せる質問回答」の場をいただき、3回の茶話会に合計20人以上の方々がお集まりくださいました。

皆様方からのご質問と、それに対する私の拙い回答ではありますが、ご報告を兼ねてここにまとめさせていただきます。

【最大のテーマは

『今さらですが、受験のことを知る機会がない…』

という本音】

ご質問1 「塾のための塾」に行かせたい気持ち…

「子どもに中学受験をさせるには、受験のプロである塾にお任せするのが一番いい」と考え、通塾を始めたのですが、受験って「お任せ」するほど甘くはないことに最近気づきました。

単元はどんどん進み、宿題は家庭でやらなければならないし、5年、6年になると、問題がむずかしくて宿題のフォローができない…。

できるお子さんは、授業内容を理解しているから宿題もすぐに終わるし、手もかからないのでしょうか、うちの場合は、親子で悪戦苦闘。陰湿な雰囲気になってしまいます。結局、毎回「解説を読んで、解答を写したら！」というくり返し。

塾ではちゃんと教えてくれているんですよね。そのときは、子どももできたつもりになっていて。でも、本当に理解しているわけではないから、宿題もできず、もちろんテストもさらにできない。何のために塾に通っているんだか…。塾での成績を上げるために、「**塾のための塾**」に行かせたいような気持ちになっています。

回答1 中学受験とは…

子どもの成績が思うように伸びないと、あせりと不安で落ち着かなくなってしまう。いけないことだとわかっているのに、一番近くにいるわが子に八つ当たり！

「いったい授業は聞いているの？（心の声 授業料、高いんだからね）」

「わからない問題はお母さんに聞かないで（心の声 お母さんだってわからないんだから）、先生に聞いてもらっちゃいね！」

「こんな点数しか取れないのなら、受験、やめなさい！（心の声 この点数でもしょうがないかなあ。でも、ひとこと言っておけば、もしかしたらやる気になるかもしれない…）」

受験生のいる家庭では日々くり返される会話です。もちろん、わが家でも、そうでした。

私たちの最大の思い込みは、「塾に行かせれば、なんとかしてくれる」という過度な期待。実際は、何とかなる子もいれば、何ともならない子もいるのです。なぜこのような差が出るのでしょうか。

中学受験の現実

では、中学受験の現実を考えてみましょう。

子どもたちを選抜するための中学入試の問題は、基本的には文部科学省が告示する教育課程の基準である学習指導要領の範囲内で作られると言われていますが、算数では小学校では深く習わないことも取り上げられることがありますし、複雑に組み合わせた難しい問題も見られます。

また、国語読解でも、難しい内容の文章を制限時間内で読み解くことが求められます。具体的には、5000字以上の長文二題と知識問題や漢字を50分～60分の制限時間内で解かなくてはなりません。特に長文の読解問題を時間内で解くことは、小学校では多くの場合習いません。「国語は読書をしていればできる」と多くの方がそう思いかもしれませんが、12歳の中学受験では、そうとも言えません。

中学入試の問題と、学校での学習のギャップ

中学入試の問題と小学校で学ぶことの間には、ハードルがあることは確かです。それを飛び越える手助けを、私たちは塾にお願いしたいと思っています。塾でも、もちろんそのハードルを越すために受験指導がなされるのですが、しかし、学校で習う基本的な学習はすでに家庭学習で確実に身につけていることを前提として、塾の授業は進みます。つまり、塾は、「**受験指導はしますが、学校の学習の穴埋めをする時間はありません。それは、ご家庭でなさってください**」という方針なのではないでしょうか。

しかし、受験準備を塾に任せたとおっしゃっているご家庭の中には、小学校の勉強が受験の基本であるという意識が薄い場合があります。通塾を始めた子どもたちは、異文化の学習の場にいるような感覚になるのでしょうか。「楽しいけれど…。なんだかよくわからない…」。このことばを聞くと両者間のギャップは、かなりあるように思います。

ですから、「こんなはずではなかった…」、「塾のための塾に入りたい…」というお母様方

の悩みが生まれるのではないのでしょうか。

また、塾では、必要以上に難しい問題を教材とすることも多いため、それを解けるようになることが「合格への道に違いない」と親子ともに勘違いして、夜遅くまで頑張ってしまうことがあります。

しかし、本当に難しい応用問題を解く必要があるのは、上位のいくつかの学校を受ける場合です。それ以外の多くの学校の入試では、四教科ともに6年生までの基本的な学習を確実に身につけていること、また、正確に情報を読みとってそれを答えとして表せること、この二点を身につけた子どもたちを選抜するような問題構成となっています。

ですから、「難しい問題ができるようになること」ではなく、基本問題を正確に解き、「みんなができる問題を間違えないようにすること」を課題として受験の準備をしていきます。

上位校を目指すのならば、「基本は絶対に落とさないこと」が大事、その上で「応用力をつけていくこと」を学ぶ必要があります。

家庭で、基本学習を徹底させる

こうして考えると、すでに通塾しているご家庭では、今からでも学校レベルの問題の復習、つまり、基本問題の復習を確実にすることが必要と言えるでしょう。これから通塾を考えているご家庭では、学校の基本学習の復習を、今一度、見直し、徹底させてから通塾を開始しましょう。

中学受験の最大の課題である学校の勉強と塾の勉強の間のギャップは、「**基本学習を家庭できっちり学ぶことで、解決していきましょう**」というのが私の考えです。

「私には無理」と思われる方もあると思いますが、自分にとって無理なことは「子どもにとっても無理」なこと。私たち自身ができないような難しい問題を思いきって省くと、基本問題が見えるようになりますから、それを徹底的に復習します。そして、さらに私たち親の調子が上向きになってきたら、**質問2**で述べる**基本の強化問題**に進みます。レベルは必ず上がっていきます。塾に頼りつつ、12歳の受験を親子で乗り越えていきましょう。

塾の先生方へのお願い

そして、塾の先生方にもお願いいたします。

質問や相談にいらしたお母様方が真剣に子どもたちと向き合っていच्छやると思われたら、どうぞていねいに解答法や回答をお伝えください。大人は、「この問題がわからない」とは言いにくいものですが、私も含めて指導者は、そんな親御さんの気持ちをくんで、自分たちができる範囲で励ましてまいりましょう。

ご質問 2 単元の基本が大切と言われますが、何が「基本」かがわからない…

基本が大事だということはわかりますが、基本問題とはどの問題のことですか。わからないので、全ての宿題をこなそうとしているのですが、こなすだけでも大変で、理解はもちろんしていませんし、結局、解答を写したりして…。こんなことの繰り返しですから、時間ばかりかかって少しも力がつきません。塾に行っているのに、ひどい点数を取ってくるんですよ。

回答 2-1 基本がわからない…

「基本が大切」ということは、耳にたこができるほど聞いていらっしゃることでしょう。なぜ、だれもが、何回も同じことを言うかということ、各単元の基本を理解すれば、わが子を乗せた舟の船頭となって、流れに乗せて子どもを導けるということをお伝えしたいからです。あいまいなまま勉強をこなしていると、受験そのものがむずかしくなってしまうことを避けたいと指導者は考えています。

「この単元の基本はどれなのか、先生に聞いてきなさいね」と子どもに言うのではなく、**勇気をだしてご自身で先生に質問**なさってください。

「子どものことだから、子どもに任せる」といういつものパターンではなく、私たちが子どものために恥を忍んで一歩行動することで、わが子の未来が明るくなることもあるのですよ。そして、それを信じます。

さて、ご家庭でお母様方が基本を知るために、塾のテキストや、学校の教科書と照らし合わせて参考になさるものとして、「自由自在」（受験研究社・旺文社など）を挙げます。

子どもに渡して読ませるものではなく、大人が使う参考書です。ひと手間でもあります。基本を知ろうとすることで、家庭学習の質は変わっていきます。「受験だから基本では足りない」ではなく、「基本こそしっかり」。

自分で見つける、基本と基本の強化問題

参考までに、恥ずかしながら、私なりの基本問題の見わけ方をお伝えいたします。

私たち親自身がすんなりと問題が解けるものは基本問題、解き始めても先に進まないものや解答解説を見たくなるものは応用問題。このように区別しておくと、あんがいスムーズに分類できます。

応用問題と思った問題でも、参考書や塾のテキストを読むと、大人ですから「そうそう、思い出したわ」というように理解して解ける問題は、基本と応用の間の問題、つまり、子どもたちにとって「できなければいけない重要な**基本の強化問題**」であることが多いものです。成績が足踏み状態の子どもたちを伸ばすには、この**基本の強化問題**を上手に導くことです。あきらめずに、子どもの問題を解いていきましょう。

回答 2-2 算数編 受験の前日まで役に立つ、ミス問ノート作りを

算数の**学習の基本姿勢**は、計算ミスをなくすこと、式をきちんと書くこと（あちらこちらに書くのではなく、問いごとに分けて書くこと）、設問の条件に印をつけること。よくよく注意して、子どものノートを見てください。

さて、「基本」は何かというご質問とは少し角度が違いますが、結果的には「基本探し」につながる学習法をお伝えいたします。

特に算数は、「基本」を理解していないと、雪だるま式に分からないことがふえる場合があります。つまづいたものは、早い段階で理解させなければなりません。わが家でも「これは大変!!」という事態が起きました。これではいけないと思い試行錯誤した結果、わが子でも、また、その後の四教科指導の家庭教師としても、効果をあげた方法をお伝えいたします。

ミス問題ノート（別名 お宝ノート）を作り、どのような問題ができないのか、どこでつまづいているのかを明確にしておく方法です。具体的には、ミスした問題の中で、子どもが自分では解き直しができなかったものを切り取りってルーズリーフに貼り、そのページの裏には解答を貼ります。（表裏で一問の問題と解答になるように）この一枚ずつのルーズリーフをバインダーに入れていきます。

途中までで考えられたのならば、「ここまではできているが、この先が不明」というように赤で書き込み、塾の先生に教えていただきます。でも、現実には、子どもたちは質問教室へは行かないのですね。ですから、このノートを持参なさせて、お母様が先生にご質問なさることも一時期は必要だと思います。

このミス問ノートの中で、くり返し解いて理解が深まった問題のページは、もう一冊用意したバインダーを「OK ノート」とし、そちらに移します。組み替え可能なルーズリーフは單元ごとに分類できるので、復習も大変しやすいものです。

さらに、このノートは受験の前日にも大変役に立ちます。ミス問ノートに最後まで残った苦手な問題を解いて確認したときに、安心して入試に向かうことができます。

入試の帰り道、「あのノートに最後まで残っていたあの問題、ほら、昨日やった問題。出たよ!」というわが子のうれしそうな顔を思い出します。こんなこともあるのですから、お母様方、どうぞひと手間かけてノート作ってみてください。

質問 2-3 国語編 後回しになる国語は、圧倒的に勉強時間が不足

国語の基本は、漢字・知識問題、そして、読解。

漢字と知識問題は、学校の教科書レベルのものは完ぺきにできることが基本です。

読解の基本は、『国語嫌いは親が救う』（中公新書ラクレ）の中の**読解プリント**に示した

「読み方の規則」と「解き方の手順」を覚えて、ルールにそって正確に読み、手順にそって設問の条件に正確に答えること。つまり、自分勝手に読み解きしない「正確さ」が基本です。皆さんお悩みの「時間内で解くこと」は、基本をくり返していけば必ず身につく**読解の応用**です。また、「本文中のことばを使って正確に解答すること」が基本で、上位校に必要な「自分のことばで解答すること」が応用となります。

さて、家庭学習で算数に時間がかかる状態ですと、当然、国語が一番後回しになりますね。国語はどうにかなると思いますでしょうが、実は一番点数を上げにくい科目です。後回しになってしまう国語は、圧倒的に勉強時間が不足します。読む勉強と、解く勉強をしなければならないのに、時間が不足するので、設問に必要なと自分が思ったところだけ読んで解答したり、選択肢問題はカンで答えたりするしかないのですね。これが「勝手な読み方」のはじまり。

国語は、文章を正確に読まなければ、深く読めるようにはなりません。残念ながら、都合のいい即答法や速読法はありませんし、答えを探すような読み方では、点数は安定しないものです。

また、入試の国語には、選ばれている文章はもちろん、設問一つひとつにも、学校からのメッセージが含まれています。たとえ題材となる文章が同じであっても、国語の問題には学校ごとに特徴があることが過去問を解くと、よくわかります。そして、6年生の子どもたちは、心をこめて作られた志望校の入試問題を、ていねいな気持ちを持って読むことは、すでにできるようになっているはずです。まずは、「勝手な読み方」を正しましょう。

国語はどの程度勉強すればいいのか、その目安をお伝えいたします。

6年生は週3日、1時間～1時間半程度。

5年生は週3日、40分～1時間程度。(毎日ならば20分～30分)

読解プリントにそって、集中して読解の練習をなさってください。国語の読解訓練の効果は、すぐには表れません。3カ月程度はかかります。あきらめずに、そして、信じて、どこまで頑張れるか、それが国語の訓練です。何とか頑張ってください。

具体的な読解のやり方については、「印つけとメモ書き」の読解法を述べた「**お母さんが教える国語**」(ダイヤモンド社)・更新した読解プリント付きの「**国語嫌いは親が救う**」(中公新書ラクレ)をお読みいただいたり、あるいは、不定期開催の「**お母さんが教える国語親子教室**」にいらしていただいたりということをお勧めいたします。

質問2—3 理科・社会編 どこまで勉強すればいいのかわからないという不安

これまでと同じく、基本がどこまでなのかわからないということですね。

塾のテキストの各単元の基本と書かれている部分を繰り返し読んで(短いものならば3

回～4回) 覚え、基本問題・確認問題をやり、そこでできなかったものは基本がわかっていないと考え、もう一度基本の理解を深めます。

理社の場合、「覚えることと、問題を解くこと」はワンセットです。ノートにまとめるという勉強もいいのですが、時間がかかりすぎるように思います。

ミスしたものはきちんと赤で✓をつけ、その場で覚え直し、次の日にもう一度その問題をやる。この繰り返しで、60%～70%近く正答するはずです。難しい応用問題まですべてこなす勉強よりも、基本と確認までをきちんと覚えて理解することの方が大切です。難しい問題を省く勇気を持ちましょう。

理科の生物や植物の分野は、資料集などカラーのものを見ることが暗記を助けます。

社会は、都道府県名などきちんと漢字で書けるようにします。先程お伝えした学校レベルのものでも、あんがいミスをしています。学校のものは、完ぺきにできるようにしましょう。地図や年表は目に見えるところに貼っておきます。

以上、お母様方からのご質問と、その回答をまとめさせていただきました。

国語の寺子屋 早川尚子